

# 国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座 サイエンスコミュニケーション1 (SC1)

～理論と実践の対話型カリキュラム～

サイエンスコミュニケーションとは？サイエンスとは？といった考え方をはじめ、メディア・研究機関・大学・博物館など、各機関・分野で活躍している講師から実践を踏まえた理論を学習します。

また、様々な人々に科学を伝える際に効果的なプレゼンテーションの方法について学びます。

応募〆切  
2021年  
5月14日(月)  
17:00

## 講座概要

【主催】 国立科学博物館

【対象】 大学院生※1、博物館職員等社会人

【方法】 オンライン※2

【期間】 令和3年6月～8月

【コマ数】 30コマ

【定員】 14名程度

【受講料】 63,000円（大学パートナーシップの学生は31,500円）  
→<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/enroll.php>

※1 当館大学パートナーシップ入会大学の大学院生を優先させていただきます。

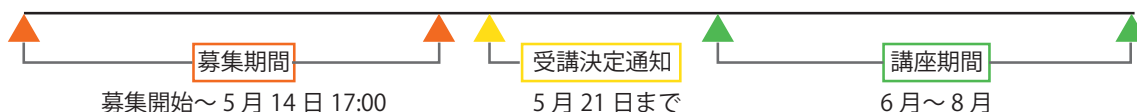
※2 令和3年度における「国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座」の「サイエンスコミュニケーション1 (SC1)」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、全てオンライン形式にて実施いたします。

【応募方法】 「サイエンスコミュニケーション1 (SC1)」のみの募集となります。  
本講座のHPをご確認いただき、Gmailにて、必要事項をお送りください。  
→ <https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/sc/sc.php>  
宛先：SC講座担当 [sc@kahaku.go.jp](mailto:sc@kahaku.go.jp)

なお、応募に際し記載いただく事項が多くありますので、余裕を持ったご準備をお願いいたします。

- 【注意事項】
- ・社会情勢、講師の都合、自然災害等により、やむを得ず、講座の全部または一部を中止したり、講座内容や配信期間等を変更したりする可能性があります。
  - ・本講座HPに掲載している応募に係る注意事項をお読みいただき、記載事項についてご承諾の上、ご応募ください。
  - ・講座の詳細につきましては、本講座HPをご確認ください。

## 受講までの流れ



令和3年度 国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座

<サイエンスコミュニケーション1 (SC1) 講義一覧・スケジュール>

- 令和3年度の「国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、全てオンライン形式にて実施いたします。
- 講座は、主に講義と課題研究から構成されています。

講義	サイエンスコミュニケーションに関する理論を学ぶ講義です。担当講師は各分野の第一線や現場で活躍されている方々です。オンデマンド型授業と同時双方向型授業から構成されています。一部同時双方向型授業のみの講義もあります。(それぞれの事前・事後課題も含めて、深く学びます。) オンデマンド型授業は同時双方向型授業実施日の1週間程前から配信予定です。
課題研究	一般の方に向け、自分自身の研究についてオンラインで発表をするための授業です。担当講師は当館研究者・職員です。課題研究では、発表日(8月9日)に向けて自身の研究・専門分野についての「ディスカバリートーク」を準備するとともに、内容等について、講師や他の受講者との議論を通じて改善していきます。ディスカバリートーク…土・日・祝日に当館の研究者が交代で、展示物についての話や研究者自身の研究内容などについて、来館者に直接解説するイベントです。(https://www.kahaku.go.jp/learning/event/d_talk/index.html)

赤枠6月12日・8月9日は、必ず参加していただく日となっております。

同時双方向授業 実施日程	同時双方向授業 実施時間	講義名	氏名	所属
6月10日(木)	15:30~17:00	オリエンテーション	当館職員	国立科学博物館
6月10日(木)	17:00~18:00	サイエンスコミュニケーションという 考え方、背景及び目的 ※1	渡辺 政隆	日本サイエンスコミュニケーション協会 会長 同志社大学 特別客員教授
7月21日(水)	17:00~18:30	サイエンス・ライティングII ※1 ※2		
6月18日(金)	17:00~18:00	博物館の機能と サイエンスコミュニケーション ※1	小川 義和	国立科学博物館 調整役
6月25日(金)	17:00~18:00	地域コミュニティにおける科学館の活動	代島 慶一	静岡科学館 企画担当長・主査
7月2日(金)	17:00~18:00	サイエンスコミュニケーションの考え方 をどのように生かすか ※1	池谷 知夏	大日本図書株式会社 編集局 編集一部 小学校算数教科 小学校算数教科担当
7月6日(火)	17:00~18:30	文化としての科学技術	岡本 拓司	東京大学大学院 総合文化研究科 教授
7月10日(土)	13:30~14:30	メディアに見るサイエンスコミュニケーション の実際:出版編	未定	未定
7月10日(土)	15:30~16:30	メディアに見るサイエンスコミュニケーション の実際:新聞編 ※1	大木 理恵子	朝日新聞社熊本総局 記者
7月16日(金)	17:00~18:00	対面式サイエンスコミュニケーションの実際	島崎 直也	Sakumo 佐久市子ども未来館 館長 こどもヘンテコまほうラボ 所長
7月19日(月)	17:00~18:00	調査・研究活動と展示 ※1	加瀬 友喜	神奈川大学 理学部 特任教授
7月26日(月)	17:00~18:00	研究機関における サイエンスコミュニケーションの実際	相馬 央令子	宇宙航空研究開発機構(JAXA) 研究開発員
7月27日(火)	17:00~18:30	これからの学校教育で求められる学び	清原 洋一	秀明大学 学校教師学部 教授 秀明大学教育研究所 顧問
6月12日(土)	13:30~17:00	課題研究(計16コマ) ※3	当館研究者・職員	国立科学博物館
6月28日(月)	13:30~17:00			
7月13日(火)	13:30~17:00			
7月29日(木)	10:00~17:00			
8月5日(木)	13:30~15:00			
8月9日(月)	10:00~17:00			
8月23日(月)	13:30~17:00			

状況により、授業の実施日程等の変更や、講義の中止等の可能性がございます。

※1 令和2年度「科博オンライン・セミナー～サイエンスコミュニケーション編～」(令和2年9月～11月実施)の修了者は、申請によりすでに受講済みの授業とみなすことができます。

※2 「サイエンス・ライティングI」(※1)は、オンデマンド型授業90分となります。

※3 各日程に記載されている時間は、開始と終了の予定時間であり、適宜休憩時間が設定されています。